

成田空港「エアポートシティ」構想 【概要】

1 外部環境

- 【世界】人口増大・グローバル化、高齢化進行、国際秩序の不安定性、気候変動問題、航空需要増大、空港間競争激化 etc.
【日本】人口減少、少子高齢化、国際競争力・相対的地位低下、外国人増加、食糧安全保障 etc.
【地域】周辺地域におけるポテンシャル未活用、地域公共交通の課題、農業生産効率、外国人住民の増加 etc.

成田空港及び周辺地域

世界の成長を取り込み、日本経済の再活性化と地域の持続的な発展をけん引する「未来志向型エアポートシティ」へ

2 本構想で目指すビジョン

“誰もが輝き、世界と響き合う「フラッグシップ・エアポートシティ」”

コンセプト

- 成田空港の国際競争力獲得、日本の成長戦略を牽引する重要な国家プロジェクト
- 世界の活力を取り込み、我が国・成田空港・周辺地域が本来有するポテンシャルを最大限に発揮
- 世界をリードするモデル都市圏への変貌

目指すべき姿

- 世界で日本を輝かせ続けるフラッグシップ・エアポートシティへ
- 次世代産業育成・DX活用等による活力創出
- 国際産業拠点形成、日本で最も国際的なまち＝未来志向型エアポートシティ
- 空港地域固有のアイデンティティ・景観形成

ビジョン実現に必要な3つの観点

①多様な主体による革新的な取組 ②起爆剤としての資本投入、多様な民間投資の継続的な誘発 ③必要に応じた規制緩和と制度導入

3 ビジョン実現のためのアプローチ

産業・イノベーション

- 世界水準の航空・先端産業クラスター形成
- 医療・農業・観光の、空港を核としたグローバル拠点化
- 物流の効率化・高度化 ○規制緩和・制度導入

ウェルビーイング

- 空港と高度産業を支える人材育成・集積
- 選ばれる魅力的な居住エリア・景観・コミュニティ形成
- 里山・田園・海・川と共生する新たなライフスタイル
- グローバルで高質な教育環境整備

交通・モビリティ

- 複合的な広域幹線道路ネットワーク整備 ○鉄道アクセスの充実
- 周辺のまちづくりを踏まえた効率的な地域公共交通の実現

ダイバーシティ・サステナビリティ

- 誰もがその人らしく生きる・分かり合える地域社会の実現
- 空港と地域で環境に配慮した統合的取組を推進
- 空港を核とした防災拠点の確立

4 ゾーニング

- 空港を中心とした広域経済圏の創出
- 成田空港周辺を5つのエリアに分け、それらが連動して世界をリードする空港都市圏を形成
空港至近のエリアは、4つのゾーンで高アクセスと好立地を活かし国際的な産業・物流拠点を形成
- 併せて空港と周辺地域が有機的に連携した産業・居住・観光拠点を形成

5 ロードマップ

- 構想実現に向け、様々な関係者・ステークホルダーの存在と合意形成を前提に、空港拡張、各種開発、インフラ整備、法制度、各種サービスの展開等を中長期的な計画性をもって推進
- 構想実現にむけて、①構想期、②実行期、③展開期、④定着・持続期の4段階のフェーズを設定

6 推進体制

- 各ステークホルダーが積極的に参画し、有機的に協働・連携する推進体制を構築
- NRTエリアデザインセンターは関係者間の「結節点」として、対外調整・協力促進や構想の周知・広報、マッチング支援等を実施、産官学の連携・協力の下で本構想の実現に向けて取り組む。